

科目名	小児看護学対象論【疾患】	対象学年・時期	2年・前期
講師	非常勤講師	単位数・時間数	1単位・15時間(30時間)
授業概要	小児医療は年々進歩を続け、数多くの子どもの命を支えている。現代は先進医療が進み、昔は救えなかった命を救い守り続ける技術も進歩している。そのため小児を看る看護師には、症状が急激に変化しやすい小児の身体的特徴を十分理解し、疾患に応じた症状を捉え正しく状況をアセスメントする能力が求められる。小児が罹患しやすい疾患の病態、診断や治療について理解することが重要であることの認識を基にこの科目を設定する。		
授業形態	「講義」		
学習目標	1. 小児の疾患の病因、病態、検査、治療が理解できる 2. 小児の自覚症状や身体所見と関連した病態生理を理解できる。		
授業計画	1. 新生児疾患/遺伝性疾患・染色体異常  2. 代謝・内分泌疾患/免疫・アレルギー・膠原病  3. 感染症  4. 呼吸器疾患/循環器疾患  5. 腎・泌尿器疾患/消化器疾患  6. 血液・腫瘍疾患/神経・筋・精神疾患  7. 外科疾患  8. 眼疾患		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 第3版 メディカ出版□ 中村友彦 西沢博子(編)		
事前・事後学修 (学習を促進できる学修)	事前に授業内容を確認し、解剖生理学・病態学・子ども看護学概論を復習しておくこと。		
評価基準と評価方法	筆記試験で評価		
備考			

